

【小学生の部】国土交通事務次官賞

「わたしたちが出来ること」

鹿児島市立星峯東小学校 2年 中原笑麻

わたしは、夏休みの自ゆうけんきゅうで、土しゃさいがいについてしらべました。

さいしょにお父さんから水がいについて学びました。わたしのお父さんは、しょうぼうかんです。お父さんは、火じだけではなく、いろいろなさいがいに出どうしているそうで、東日本大しんさいの時、つなみでながされた町にきゅうじょに行った話も聞きました。つぎに、お父さんといもうとと3人で、りゅうが水えきを見学に行きました。ここは、へいせい5年8月6日にはっ生した「8・6水がい」で大きなひがいをうけたところです。えきにつくと、目の前にきれいな海が広がってとてもいいけしきでした。お父さんがきゆうに、

「うしろを見てごらん。」

と言いました。ふりかえると大きな山がならんでいました。

「この山が水がいの時にほとんどくずれて、人が生きうめになったり、車やバスがながされて多くの人がなくなったんだよ。」

と、かなしそうに言いました。

わたしはふしぎに思って

「どうしてこんなきれいな山がくずれたの。」

と聞きました。おとうさんは

「かごしまは、シラスとよばれる土が多くて、じめんがよわいんだよ。そして、大きくてつよそうな木が生えているところでもたくさん雨がふりつづくと、一気にじめんがゆるんで、あつという間にくずれてしまうこともあるんだよ。」

と、教えてくれました。

さい近では、ふくおかや大分など近くの町でも、大雨のさいがいのはっ生しています。いえがながされたり、町が水びたしになったり、多くの人ひなんしているすがたをテレビで見て、とてもかなしい気持ちになりました。

今回お父さんとさいがいについて学んだことは、さいがいがないようにすることはできないけれど、きた時のためによいしておくことは、だれにでもできるということです。しょくりょうや水などの生かつするためにひつようなものを、前もってよいしておくことが、一ばん大切であることを知りました。

わたしは、このけんきゅうで学んだことをしっかりと心にきざみ、自分のいのちをまもりたいと思います。また、自分だけでなく、かぞくや学校のともだち、近じょの人たちともたすけ合うことを、大切にしていきたいと思います。